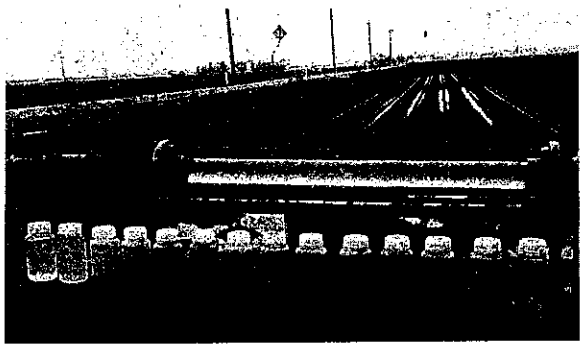
技術者認定で講習会

アイスピグ研究会　実管路でデモ洗浄も

アイスピグ研究会は6・7日、会員の環清工業（本社・酒田市、青山武社長）社員を対象に、アイスピグ管内洗浄工法の技術者認定講習会を開いた。同社は先月、国内5台目となる「特殊アイスシャーベット（SIS）製造機」を導入しており、講習会は、座学と現場（今回は庄内町でのデモ洗浄）での実技を通じて、アイスピグ洗浄を行う上で必須となる洗浄、製氷技術を身につけることを目的としている。新たに認定された洗浄技術者8人と、製氷技術者2人には認定証が交付される。



洗浄効果を示す色の変化

近隣の自治体からも見学者が

デモ洗浄は、山形県庄内町の実管路（下水道用ポリエチレン圧送管φ100、460㍍）を使用し、実技演習と新しいSIS製造機の試運転、近隣自治体などの見学会を兼ねて行われた。講師と受講者のほか、酒田市上下水道部、庄内町下水道簡易水道係、高砂熱学工業（本社・東京、大内厚社長）、東北環境開発（本社・鶴岡市、富樫博社長）の見学者など約20人が参加。含氷率73％のSIS2・2㌧を注入し、約1時間後に管内の夾雑物を回収した。

使用した管路は、供用開始から約3年と日が浅いが、洗浄効果を視認するために設けられた透明のアクリル管を通じて、汚れを包み込んだSISが茶褐色に変化する様子をはっきり確認することができ、見学者からは感心する声が上がった。

青山社長は、「今回のデモを機に、地元庄内地区自治体をはじめ山形県内の官民を含めた洗浄案件の獲得につなげていくのはもちろんのこと、年内には東北地域協会を立ち上げ、アイスピグを東北全域に広めていきたい」と意欲を語った。